会　議　録

１　会議名

令和５年度第５回直江津区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

・令和６年度地域独自の予算について（公開）

３　開催日時

令和５年７月２５日（火）午後６時３０分から午後８時２０分

４　開催場所

上越市レインボーセンター　多目的ホール

５　傍聴人の数

０人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：　青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田村雅春、古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者４名）

・事務局：　北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

８　発言の内容

【近藤副所長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

・挨拶

・会議録の確認：久保田委員、坂井委員に依頼

【青山会長】

議題【協議事項】令和６年度地域独自の予算について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

前回の会議で、令和６年度地域独自の予算の事業提案に向けたロードマップを協議していただき、決定した。また、取組案については、地域活性化の方向性の構成要素と関連付けて整理することとした。地域活性化の方向性は、磯田副会長から考え方の提案があり、資料№.１のとおり、まとめさせていただいたので、改めて確認いただきたい。

・資料№.１「直江津区における『地域活性化の方向性』(案)」に基づき説明

本日は、各委員から提出いただいた取組案を整理し、優先的に取り組む事業を抽出していただく。正副会長会議で検討した資料をたたき台として、検討していただきたい。

【青山会長】

直江津区の地域活性化の方向性について、資料№.１のとおりとしてよいか。

（異議なし）

直江津区の地域活性化の方向性が決定した。今後について事務局へ説明を求める。

【小川係長】

決定いただいた地域活性化の方向性は、地域政策課へ報告し、市のホームページで公表することとなる。また、次回発行する地域協議会だよりにも掲載して紹介する。

【青山会長】

取組案の整理、優先的に取り組む事業の抽出について、磯田副会長へ説明を求める。

【磯田副会長】

・資料№.２「直江津区『地域活性化の方向性』」に基づき説明

事務局から、この五つの項目ごとに出された、各委員のご意見を整理していただいた。これについては、資料№.２に反映はしているが、抜け落ちていたり、全部を網羅することはできなかったので、見ていただいて、これは重要だというものがあれば、またご意見をいただきたいと思う。今日は、取組の整理と、それに結びつく事業提案、ここを重点的に協議していければと思っている。構成要素のところの大項目から中項目にいく、②番や③④⑤と書いてあるところは、前回私が私案でお示ししたときの丸をつけてあったもの、それから三角で比較的重要だと思われるところを主に抽出した。皆さんからいただいた意見のなかには、丸ではなかったところもあったりするので、その部分は、後でご発言いただければありがたい。話が長くなるが、上の段から、この整理したものをご説明させていただきたい。構成要素の１番、支え合い生き生きと暮らせるまち・直江津の②番、地域医療体制の充実というところで、課題キーワードとして、赤文字で書い

た労災病院閉院問題がある。取組の整理としては、この問題を地域協議会がどのようにコミットできるのか、直江津区の自主的審議案件として議論するか、しないか。この問題は、降って湧いたような、一般市民の人たちが認知したのは、ほんの１ヶ月も経たないつい最近のことだが、この問題についてどう考えるかというのが、まずは取組の整理としてあるだろうと思っている。事業提案のところの色をつけているものと優先順位の考え方は、取り組みやすさで優先順位をつけている。課題の緊急性や、今までの自主的審議の議論の重い、軽いではなく、令和６年度の事業に乗せられるか、乗せられないかという、優先順位で書いた。Ａが、一番早く上手くいくのではないかと。Ｂはその次に、もしかしたら上手くいくのではないかと。Ｃは少し考えないといけないかと。Ｄは大分考えないといけないかと。市との協議も十分必要になってくるかと思い、とりあえず色をつけた。一番上の、労災病院閉院問題のところの黄色は、まだ自主審議もしていない案件で、これをどう扱っていくかというところで、今は優先順位を書いてない。その下の段、③④⑤番、高齢者福祉、障害者福祉及び複合的な課題を抱える世帯への支援ということで、これは生涯教育や公民館活動、市民団体が主にやっていらっしゃる福祉関係の事業であるが、この取組の整理ということで、この課題も自主的審議では十分議論したことがない。地域活動支援事業のなかで、いくつかの団体の提案を審査した経緯はあるが、今までの支援事業の延長から、どのように生き生きと暮らせるまち・直江津を作っていくのかという議論、整理が必要になってくる。そして、これは確か増田委員だと記憶しているが、各種講座や地域の茶の間事業等への支援をしていってはというような話があった。その事業提案としては、一つは今までの市民団体の独自事業として動いていくのかというのと、Ｃと優先順位を付けたが、各種講座や教室の開催と事業の支援をどう作っていくかというようなことが、可能性としてあるのではないかというところである。関連団体としては、正式名称を思い出せなかったのだが、上越オレンジサポーター、ふぁみりりさん、おひさまパントリーさん、民生委員や、社会福祉協議会などとの連携が必要になってくると思われる事業、分野だと思う。２番の、安心・安全快適で開かれたまち・直江津の②番、災害に強い都市構造の構築ということで、まちなか居住推進がある。特に直江の津と呼ばれている、砂丘のようにできた町のエリアは、木造密集危険度５のエリアで、非常に住環境整備が求められている。一方、市の事業としても、都市整備課がメインで、まちなか居住推進をやっている最中である。そういうなかで、協議会がどうコミットできるのかということもあるわけだが、これも増田委員の提案の

なかで、空き家の実態調査が出てきている。これについては、各町内で、今その状況を調査されているというふうにも聞いているので、また関連町内の方のご意見もお聞きしたいと思う。いずれにしても、関連団体に赤で書いた、上越市との意見交換や、協議会としての取組のようなことを、どうオーソライズしていくかということが問題になるかと思う。③番、地域防災力の維持・向上として、町内会と防災組織との連携。これは古澤委員が、かなり具体的な提案をしてくださっている。町内会長協議会と、上越防災士会直江津支部との連携で、避難所運営ゲームや、避難所体験、中学生などをメインとしたＡＥＤの講習会、防災ポスター、ＡＥＤマップの作成、ハザードマップの活用、マイタイムラインの作成勉強会等々、取り組むべき事業としては、結構あるように書かれていた。これも古澤委員のタイトル案であるが、直江津区自主防災組織事業ということで事業提案してはどうかという記述があった。優先順位としては、Ｂとしてあるが、各団体が動ける、すぐに対応できるものをＡだとすると、Ｂは少し調整や、全市的な取組のなかで、この活動が直江津区地域協議会の事業としてどうか、というところが論点になろうかと思っている。⑥、⑦、⑪の課題キーワードとして、環境先進タウン直江津の実現と書いた。今日欠席の田中実委員の、前回提案の拡大解釈をしていくとしたときに、ごみの不法投棄の問題や天王川のクリーン活動、上越プラネットさんが、直江津海岸の清掃活動を直江津中学校とずっとやられている。そのへんで、直江津地区美化運動事業、のようなことが立ち上げられるのではないかと考えた事業提案になっている。取組の整理では、海岸ラインの整備、充実、景観づくり、ベンチ設置、花壇の整備や草刈り、或いは小型風力発電街路灯などの部分については、少し協議や議論、或いは全体のなかで意見交換も必要になってくると思っている。一応事業名として、直江津ウォーターフロント・ルネッサンス事業と書いたが、優先順位としてはＤランクくらいかと思っている。これは、前回の直江津プライド２０２１の、市民参加型のワークショップで得られた提案をベースに、景観づくり、海岸ラインの整備をしていきたいという提案である。最後の、雁木通りの整備、街中回遊整備（水族館ロード等）、景観づくり。これは久保田委員も提案されていたが、街中を歩いて楽しい回遊空間というか、そういうものをどう作っていくかということがあるし、雁木の話については、田村委員がかなり前から提案、発言をされていた。それらを本格的にやっていこうとすると、都市計画レベルでの行政とのやりとりが必要になってくるかと思う。例えば、安国寺通りの都市計画道路の廃止を早く決めてもらわなければ、雁木が残っていかないという問題もあるし、雁木補助金の

スキームの再検討をしていってもらいたいというようなこともある。いずれにしても、市との協議がまず必要になってくると思っている。２番の⑩、自然環境の保全として、直江津パークマネジメントと書いたが、五智公園を市民いこいの森に、或いはまちなか公園整備ということだが、今後の十分な議論と検討が必要になってくるのではないかということで、当面は、五智公園を育てる会の皆さんの活動のバックアップ的なところに落ち着いていくのではないかというところである。「あれしてくれ、これしてくれ」という提案も、実際に自主的審議のなかで出ているわけではないので、そこを６年度の予算に入れてくるというのは、難しいところがあるかと思い、Ｄという評価にしている。３番、誰もが活躍できるまち・直江津は、地域自治の問題や、若者の活動の場を作って広げていくというような取組である。取組の整理としてはいろいろと書いてはあるが、事業提案までとなると、なかなか出てこない。辛うじて今までの支援事業の延長線上のイベント、事業、例えば、寒ブリ祭りや四十物祭りへの支援というか、提案というか、そういうものをしていくかというところになるが、そのイベント内容を協議会で提案していくとなると、また一つ協議が必要になってくるかと思っている。４番、魅力と活力があふれるまち・直江津だが、ここは市長の言う通年観光のなかでの、観光振興の強化とシティプロモーションという部分がかなり強いメッセージとしてあり、取組の整理でもたくさん意見が皆さんから出てきている。少し要約して書いたが、海周辺、海岸通りの環境整備やリゾート感を創る事業。海浜公園の更なる活用（若者向けイベント会場）。うみがたりへの来客を次の直江津観光へ（レンタサイクル、観光モデルコース、案内版、まちなか観光まちあるき等）。屋台会館を観光インフォメーション＋歴史文化紹介＋物販飲食施設へできないか、というようなこと。祇園祭を観光的視点で検討（可能な町内に屋台を戻して回遊スポットとする案など）。それから、これは坂井委員からだと思うが、ライオン像のある館と三八朝市の観光拠点化。鉄道博物館をどう作っていくのか。Ｄ５１レールパークの強化なのか。市長は通年観光といって鉄道博物館を作ると言ったきり、それ以上のことは何も市民に訴えてないので、こちら側も、何をしていいのかわからないというような状況で、手探りで検討しているというような感じである。福島城資料の佐渡汽船ターミナル展望室への移転検討と書いてあるが、これは「こうなったらいいな」という思いで書いた。担う団体が、どうしていくかというところが問題になると思う。五智エリアの歴史観光の強化。それから、三ノ輪台をフェスキャンプのメッカに。他にも各委員からいくつか出ているかと思うが、このようにまとめさせていただいた。シテ

ィプロモーションの推進では、直江津ＤＭＯ組織をと書いたが、直江津ならではのきめ細かな情報発信と戦略が必要ではないかと、観光コンベンション協会との連携が出来るかというところだが、観光コンベンションは、旧上越市の観光事業だけに特化しているが、大所帯できめ細やかな対応や、小さな事業について対応できないところもある。そういうところを、直江津ならではの観光戦略のようなことや、ＤＭＯ的な組織が必要なのではないかということである。これも事業提案としては大きく括ったが、市への意見書提出という道筋なのか、主体的な地域運営組織を構築していくことが必要なのではないかと思っているが、自主的審議のさらなる深掘りが必要ではないかと思っている。屋台会館の活用検討と三八朝市の活性化検討は、今年度、お盆明けて８月の後半から、直江津プライドが検討を実施していくことにしているが、成果は令和６年度の事業には、スケジュール的に乗ってこないという状況のなかで、どうつなげていくかというのが検討の課題となっている。関連団体としては直江津プライド２０２１、ひまわり會、福島城を愛する会、五智公園を育てる会等の団体と、既存の組織、町内会や、直江津まちづくり活性化協議会、商工会等との調整があって、もちろん一番大元には上越市との協議が一番重要なわけだが、なかなか独自予算で何か提案していくというのは難しそうなところである。なので、優先順位のＡＢＣＤはついていない。５番、次代を担うひとを育むまち・直江津ということで、これは次世代教育とか、次の世代に残すべき資産、歴史的な資産や文化的な資産をどう保存して活用していくか、或いは、祇園祭というものをどのように継承していくのか、ということがメインになってきている。③番では、総合的学習、特に直江津区内の小中の総合的学習の支援をどうしていくのか、学校運営協議会や青少年育成会議との連携が必要。学校教育の充実と職員の負担軽減。職場体験の充実、というものが求められているところである。ということで、地域学習支援（地域コーディネーター事業）と書いてあるが、私は青少年育成会議の地域コーディネーターという役割を仰せつかっているが、ほとんど私だけが対応している状態のなかで、地域にいらっしゃる皆さん方の力や知見を、どうこのような地域学習のなかに活かしていけるのかということは、常に思っていたところである。そういうものを、育成会議や学校運営協議会とともに構築していくということが、一つ事業としてあるのではないかと思うが、それが独自予算の事業でやるかと言われると、どうかというところもあり、ピンクにしてあるが、優先順位はつけていないというような状況である。⑥番、スポーツの振興は、特に近年の部活動について、先生方の働き方改革のなかでかなりの見直しが求め

られてきている。市は、４年後ぐらいを目安に、改革をしていくということを言っていたかと思うが、実際は土日の遠征中止だとか、何かいろいろ行われていることは確かである。課外活動、部活もやめている小学校もすでに出てきているという状況のなかで、補助人員の派遣事業みたいなことを考えてはどうか、ということが竹田委員からの提案のなかにあった。竹田委員の提案が、スポーツや部活に対しての補助人員の派遣事業のことを言っておられるのか、もう少し上の段に絡んでいて、地域学習支援の派遣、補助人員なのかというのは、今日お聞きしようかと思っていたところだが、ご不在なので、ここに記されているとおりである。これも全市的な流れのなかで、或いは市のなかでの方針みたいなものが定まってきていないなかで、地域独自予算でなんとかする話になるのか、それとも、もう少し学校に近い人の話になってくるのか、そこのところは、今後の議論を見据えてということになろうかと思う。最後、⑦番、文化活動の振興は、歴史・文化的資産の保存と活用、祇園祭の維持、継承、発展ということで福島城の資料整備、歴史人物講座、歴史講演会等、歴史的建造物の維持保存活動。屋台会館の有効活用方法といった話で、地域コミュニティ形成の核となる祭りによる次世代育成、というのが重要かと思っている。最後は祇園祭の話だが、それに対して、久保田委員から大学生、高校生の祇園祭への参加募集事業と書かれている。実際は各町内ともすでに、高校生アルバイトとか、そういうお願いをして補充をしているのが実情だが、これも独自予算でというのも、難しいかと思っているところである。とりあえず、基本目標の五つの構成要素に対して、取組の整理をつけて、事業提案としてこういうことが考えられるのではないかと、或いは提案可能性として、優先順位をつけてみたということである。説明が長くなったが、これをベースに、忌憚のないご意見をいただきたい。

【青山会長】

全体をとおして、今ほどの説明について、質問、意見等はあるか。全体をとおしては、難しい問題なので、個別に確認する。まず、各構成要素に関連する取組（案）について検討する。検討資料の内容で整理することとしてよいか。

（委員同意）

次に、地域独自の予算として提案する事業等、その優先度について検討する。意見等あるか。

【増田委員】

何をどのようにしたらよいか、実はよくわからない。地域独自の予算というものはな

んのための予算かということを、原点に帰ってみんなでもう１回確認したほうがよいと思う。簡単に言うと、「地域独自の予算を使って、地域を元気にしようじゃないか」ということだと思う。その観点から考えたときに、どういうものが対象になるかということで、最初に住民の皆さんとの意見交換会をやって、意見一覧表をいただいたが、これを見ると、住民の皆さんが何を望んでいるかがよくわかる。このような、住民の皆さんが望んでいるものを優先的にやることによって、直江津地区が元気になるというストーリーを作ると非常にわかりやすいと思う。磯田副会長から、次世代への教育と書いてもらったが、住民の皆さんからは、教育という言葉はこのなかでは出てきていない。ということは、一朝一夕でできるものではないということで、じっくり時間をかけてやるということになろうかと思う。まずは、住民の皆さんが望んでいることを実施することによって、直江津地区が元気になるというストーリーを確認したらどうかと思う。では、令和６年度は何をするか、令和７年度は何をするかというような、方向づけをしたらわかりやすいのではないかと思う。事務局のほうで、資料をまとめながらどのように感想を持ったか、参考までに聞かせてもらえばありがたい。

【佐藤所長】

カテゴリーに分けさせていただいた中で、歴史・文化に関する意見が、非常に多かったと感じた。

【水島委員】

前回欠席したので、資料を送っていただき見させていただいたが、どこに視点を置いていいのか、わからないということがまず１点である。何を優先に、何を考えればいいのかわからないと、増田委員ですら言っておられる。特に我々はわからない。確か、前回の話では、この予算のために資料を出さなければならない、提出しなければいけない。以前もお話させていただいたが、出す日から逆に追って、こういうことを決めないと提出できない、というようなタイムスケジュールが、今おわかりになっていれば教えていただきたい。そうすれば、そこに視点を置いて考えることもできるかと思う。それと、これだけの資料を、相当お考えになられて、先ほどの磯田副会長の話からも、相当大変な状況だったかと思う。今までも随分こういうお話をさせていただいて、それが主になっている。この地域を良くするための、起爆剤とはなんだろう。Ａになっている、直江津地区の美化運動は、私も大賛成である。いろいろなところを旅行しているが、綺麗なところは、また行ってみたいという気持ちになる。道端に草も生えていたり、そういう

細かいことが気になる昨今なので、そういう視点を見つけるためにも、タイムスケジュールを教えていただきたいと思う。

【磯田副会長】

増田委員にお聞きしたいが、前回、整理の付け方について決めさせていただいたなかで、この前からやっている意見交換の意見で、どのような事業提案があるのか、どの取組が住民意見として強い要望なのか、それを逆にお示しいただければありがたいと思う。

【増田委員】

磯田副会長にまとめていたこのなかで、例えば、観光については、住民の関心が非常に高い。これは大きな項目４の⑤、観光振興の強化になる。その次に、歴史・文化に対してすごく気持ちが強いというのは、大きな項目５の⑦、文化活動の振興、これがあたる。自然環境は、大きな項目２の⑩、自然環境の保全、住みやすいまちという話は、前回のなかではほとんど出てきていないが、気持ち的には潜在的にあるのではないかと思うのが、大きな項目１と２の、高齢者福祉と、地域防災力というようなことで、集約ができるのではないかと思う。

【古澤委員】

この間の会議のなかで、第７次総合計画を基点にしながら、丸を付けた項目について皆さん考えてほしいということだったと思う。それが、今報告を聞くと全部まとめられてしまっているという感じがあるので、他の意見の方も多くいらっしゃると思っている。増田委員の言われたように、皆様方でこのへんが重要だという部分を出し合いながらやっていかないと、これをこのまま整理してしまうと、これはもう元気にならないような状況になっていると思う。１９日に、事務局でやられた案の経過を、もう少し教えていただいたほうがすっきりすると思う。これはもう正直な話、答えが出ているような感じである。今、説明を受けたが、１９日の会議のなかでどうまとめてどうなった、採用にならなかったのはどこがまずかった、という部分あるので、簡単でよいので、そのへんをもう少し丁寧に説明していただきたいと思う。

【磯田副会長】

これをたたき台にして、今日の会議に諮っているので、これが決定稿ではないことを、まず誤解ないようにご理解いただきたい。こういうまとめ方でするということで、今回この資料を作っているので、それのためにこの補足資料をつけている。１９日に、事務局とは生の提案を出してもよいのではないかという議論もしたが、そこまでいくと、た

くさんの資料になって、逆に整理がつかなくなってしまう、或いは読み下していくために必要な時間が、またさらに必要になってくる、というような話のなかで、こういうようにまとめていただいたという経緯がある。先ほどの、増田委員の住民との意見交換の話もそうだが、整理をつけていけばつけていくほど、具体の話は消えていく、見えづらくなってくる。それを理解した上で、こういうものの取組の整理や事業提案をしていかなければならないということを、まずご理解いただきたい。ここに書いてある事項、或いは自分がこう思ったということについては、この場でこの事業を進めていきたい、事業提案すべきではないかということは、どんどん言っていただいて構わないし、それを実現していくために、どういう独自予算の枠組みで議論していくのか、８月末のタイムスケジュールに乗せられるのか、というところまで議論をしていくのが、今回と次回の会議の内容ということになる。これが決まっている枠組みでも優先順位でもないので、ぜひ皆さんご自分のお考えをご発言いただきたいと思う。

【古澤委員】

これは、非常に大変。時間がかかる。おそらく、いろいろな意見が出てくる。それで、二班くらいに分けるか、自分の関係する部署があるので、そこらへんで分けて、そこで煮詰めて案を出して検討をしていかないと、この全体の場では話がまとまらない気がする。数も少ないので。そのへんも事務局のほうで考えていただいて、より効果的に会議を進める、より効果的に決められる方法というものを、構築してもらえばよいのではないかと思う。意見は出し合っていると、たくさんの、いろいろな方の意見を聞いてしまうと疲れてしまう。ある程度、皆さん方もまとまった意見を持っていらっしゃるかと思うので。あと２回しかない。まとまるものもまとまらない。出た意見も駄目になる、ということが懸念されるので、もう一考できればと思う。

【久保田委員】

私も意見提出ということで、出させていただいたときには、現在取り組まれている取組がある。これは継続をしないで途中でやめてしまうと、それっきりになってしまうので、継続性のあるものを、まず優先的な形で書かせていただいた。現在行われているものを、もう少し充実するということで、プラスアルファしたような形で意見を出させていただいた。取組として継続しなくてはならないものは、まず継続。あとプラスアルファで、やっていけるものがあると思う。それを加えていってはどうかという気持ちで、今回意見を出させていただいた。

【磯田副会長】

このように事業提案と優先順位を書いたが、実際に独自予算の成り立ちや、地域協議会発案で、市の事業として、やってもらえる事業の構築ができるのか、或いは出しても市は受けるのか等、そういった問題もある。概ね、ほとんどの区が、各団体の今までの地域活動支援事業の延長のなかで事業を行っている。或いは、来年度の事業提案を受け付けている、という状況も変わらないわけである。ここで事業提案と言っているものが、どのレベルで我々がここで議論するのかということも、この短いタイムスケジュールのなかで、やれるのかというようなお話があったが、どのレベルでその事業を提案するのかというのも、まず最初の議論としてするべきではないか。今までやっている活動団体の皆さんの延長線上のなかでの、或いは、先ほど久保田委員がおっしゃった、プラスアルファであったり、協議会としての助言のようなものは、それはそれとしてありで、でも主体は各団体がやっていただくというような形が、ある程度あるのではないかと。協議会としての発議の事業を、どう作っていくかと言われても、そんなにたくさん提案できるわけでもないし、今まで、他の団体との調整がうまくできているとすれば、すでにたくさん事業が動いているところもある。協議会としての提案事業ができたとしても、一つか二つくらい。すぐに令和６年度で動けるかと言われると、実際には難しいと、これを作っていて感じていて、優先順位としては、令和６年に乗るか乗らないかで書いてみた順位がこれということである。本来もう少しじっくり議論していき、そういったグループをきちんと作って、事業提案をするという話であれば、このまま自主審議のなかで、そのまま事業を継続して検討していく、というのも一つの道ではあるかと思う。

【古澤委員】

受けそうな団体から要望はきているか。８月末に向けて、各団体でこうしてほしいとか予算について、要望が来ている団体はあるか。

【佐藤所長】

ご案内している最中で、まだ提案はいただいていない。

【田中美佳副会長】

この前、正副会長の会議で、いろいろとお話をさせていただいて、磯田副会長が資料を作ってくださったが、私自身も、理解しづらいところがある。予算の件だが、１０分の１０はどのような事業ならば出るのかという話になり、市の主催や市がやる事業でないと、１０分の１０はなかなか出ないというお話だった。今磯田副会長が言われたよう

に、団体さんがそれも理解して、「私たちやります」と言ってやってくださるのであれば、支援事業の延長としてやってもらう。私たちが、何を求めてどのようにしていけばよいのかというお話を、北部まちづくりセンターの方としたが、市がすべきことは、もうしているのではないかということで、そこに向かってどれがよいのかというものを、皆さんで検討していくべきではないかと思った。

【田村委員】

三八市と福島城と五智公園について、三八市は、直江津プライドが提案すると書いてあったが、なぜＡにならないのか。それぞれの団体が独自に、今までの延長線で地域活動支援事業に出しているのか。そのあたりを教えてほしい。

【青山会長】

議事では、次にその問題を話し合おうと思っていた。今は古澤委員の、何班かに分けて提案内容を議論したほうがのではないかという意見について、皆さんいかがか。

【増田委員】

次の話に入っていくときには、古澤委員のおっしゃるとおりにやると、話がスムーズに進むと思う。田中美佳副会長の話で、このなかに挙がっている事業は、団体が主体的にやる事業なのか。直江津区の活性化のために、行政が主体的にやる事業ではないのか。その姿勢が全然見えない。要するに「団体が何かやってくれよ」、「俺は助成金出してやるよ」と、そういうパターンになってしまっている。そうではなく北部まちづくりセンターが「私たちはこういう直江津づくりをしたい。ついては団体の皆さんのご協力お願いします」と、そこの考え方が、全然違っている。要するに、「助成金を出してやるよ」というパターンになってしまっている。そうではなくて、行政が今の直江津で、「このような不足しているところがいっぱいある。住民の皆さんから集まってもらって、意見がよくわかった。そこに向けて、行政が音頭をとってやろうと思っておりますので、団体の皆さん、地域協議会の皆さん、一緒にお願いします。」というパターンが見えてこない。なぜ地域独自の予算という名前にしてあるかといえば、その地域を活性化する、元気を出すための予算なので、「団体がポチポチやってくださいよ」という趣旨の予算ではないわけである。それならば地域活動支援事業のままでよいわけである。改めて「地域独自の予算だ」などと仰々しい名前をつけたのには、そのような大きな意味あいがあるわけである。そのことを全然理解していないではないか。私たちとすれば、行政が「皆さんの意見はわかった。こういうまちにしたいと思います。行政がやりますので、皆さんご

協力お願いします」このパターンを作ってくれれば、市民も我々も皆さん一致協力してうまく進むと思う。この団体に何を頼むか、１０分の９しか出ないような話、新規事業は１０分の７しか出ないなんて話なんて、誰が乗るのかということになる。そのあたりは、共通認識がまだできていないと思う。端的にわかりやすい話をしたが、どのように理解して、私たちの話を進めていけばよいか、それがわかれば、どのように進めていくか、話の道順もよくわかると思う。

【青山会長】

増田委員の意見はもっともだが、非常に難しくて私も答弁に困る。住民が望んでいる事業。緊急度があるような事業提案を望んでいるのだと思うが、その住民が望んでいる事業すべてが、その人たちだけに偏っている場合もあるわけで、非常に難しい問題だと思う。どのような判断をしていくかということは、皆さんの意見をお聞きしたい。

【水島委員】

もやもやしていたものが、増田委員から意見を言っていただいて、少し見えてきたように私は思う。事務局の方は、皆さん市の関係の方なのでお聞きしたいが、例えば、ものすごい発想を直江津でした。そうしたら、ある程度飲んでもらえるのか。もし飲んでもらえるのなら、ものすごい協議をここでしていかなければいけない。先ほどから増田委員がおっしゃっているように、地域を良くするために何ができるか、直江津として何を考えるかということで、こういうことを考えるから予算をつけてほしい。前の地域活動支援事業のときは、ちゃんと予算が決まっていたから、ある程度先が見えていた。今なにも見えない状況のなかで、予算がどれくらいなら妥当なのか。例えば、１億、２億の事業を直江津で考えました。本当に市は飲んでもらえるのか。そのあたりはどうなのか。例えば、デベロッパーあたりが考えるような、「直江津地域を良くするために、こういうことを協議会として提案します。それが何億です。」と言ったときに、飲んでもらえるのか。こんなばかな提案を出してきてというのであれば、意義がなくなってしまう。なんのために時間を取ってやっているかということも、市の立場として、どうかということもお聞きしたい。

【佐藤所長】

予算上限は際限なくあるのか、というようなお話かと思う。そもそも地域活動支援事業は枠があった。これだけの枠を直江津区に、判断については、地域協議会の皆さんから採点していただきながら決めていく、というものであったったが、今回の地域独自の

予算については、予算の上限というものはない。ないが、ある程度の線はあるのではないかというのが私の感想である。というのも、やはり事業の効果や、市全体の予算の枠の範囲におさまらなければいけないし。地域独自、直江津独自の事業なので、他の区との比較については、あまり比較にならないだろうが、いろいろな視点から見させていただき、どこかでアッパーというものは、見えてくるのではないかと思う。

【水島委員】

所長の言われたとおりだと思う。では上限は幾らなのか。ある程度の常識的なアッパーとおっしゃられたが、常識的なものをやるとしたときに、どれくらいの予算のものをここでたたき台として協議すればよいのか。例えば、何百万の予算の枠内でやればいいのか、今までの支援事業が９７０万円なので、要するに１千万円弱で考えればよいのか、市もある程度考えているから、もっと上のことを考えてくれと思われているのか。市の財政も非常に厳しいということも、私はわかって話しているつもりである。どうなのか。私はさきほどから視点、視点と言っているが、揉むときに、「こういうことを話そう、そこについてみんなで協議しよう」と言ったらやりやすい。「どうですか」といって話をしていると、視点がぼやけているので、何を言っていいのか我々凡人では意見が出しにくい。もし答えられる範囲であれば、お答えいただきたい。

【佐藤所長】

どの事業で、どれくらいかかるのかというのは、今ここでお話はできない。例えば、私が今「５００万円です」と言えば、うそになってしまう。出てきた事業について、その価格が本当に適正なのかというのも見させていただいたなかでの、金額の上限、金額の決定になると思うので、それが例えば５００万円になろうが１，０００万円になろうが、１，５００万円になろうが、そこの枠は全くないが、どこという線引については、答えを持ち合わせていないというところでご理解いただきたい。

【磯田副会長】

田村委員から質問があったが、ここでの表記については、令和６年度の事業提案を前提で書いている。基本的に独自予算の枠組みとしては、各団体、それに取り組む団体が、やる可能性があるものについて、地域協議会の人たちと合同で何かできるか等、そういう視点が大きい。直江津プライドで今やっているのは、三八市と屋台会館だが、それは令和５年度事業でやっていて、結論は令和６年３月である。そうすると令和６年度予算の事業提案には、検討した内容は反映できない。それ以外のコンソーシアム、或いは枠

組みで検討していただけるかということになってくる。だから、自主的審議として議論していくのは全然問題ない話だが、事業提案のなかで、誰が担ってやるかという話になると、令和５年度の結論が出ないと、手を挙げられない、アクションを起こせないというような位置付けになっている。うちの団体ではなく、田村委員が自主的に別のことをやる、或いは、地域協議会のなかで自主的審議をさらに深めるという意味では、全然問題ないと認識している。もう一つ、増田委員がおっしゃった話だが、理想論、こうあるべきというのは、確かに増田委員のおっしゃるとおりで、独自予算の事業スキーム自体が、基本的におかしい。そこは北部まちづくりセンターに正せと言っても難しい話だし、北部まちづくりセンターが、増田委員がおっしゃるような事業提案ができるかというと、頸城区や他の１３区が持っているような、区独自の予算を持ってない。増田委員の話は、旧上越市内においての独自予算の取り組み方というのは、まだ全然見えていないなかで、市の今までの取組に反旗を翻すがごとく、手を挙げろと言っているのである。それを８月末までに挙げろというのは、いささか乱暴な話で、本来その独自予算というものをどう考えるかというのは、令和６年度の話ではもう無理なので、ここは今の枠組みのなかで何ができるかということを議論する場と認知していただいて、実際にどの予算をどうしていくかというのは、地域協議会で意見書を出してもいいし、別の動き方もあってしかるべきだと思う。今の北部主体で、市事業として構築せよと言われても、実際難しいと思う。それを、なにがなんでもやれということであれば、どのように提案を作っていくかということも併せてご提案いただきたいと思う。

【青山会長】

議題から少しずつ外れてきているようなので、事務局と三役で５分ほど相談したい。休憩とさせていただきたいが、よいか。

【増田委員】

北部まちづくりセンターの皆さんを慮って、磯田副会長は話をしたが、誰かが風穴を開けないと突破口ができない。今までの延長線になってしまう。誰がやるかといったら頸城か、直江津か、中郷がやるか、くらいしかない。であれば、北部の皆さんは、私たちと一蓮托生で、一緒になって何か風穴を開けて、本来の地域独自予算というものに向けて、走っていってほしいと思う。私たちが忖度して、「無理だからここで収めよう」となってしまったら、ちっとも進歩発展がないので、なんとか覚悟を決めていただいて、直江津で、少なくとも四つぐらいは市の事業として出すことを考えてほしい。今年、頸

城は三つくらい市の事業として出している。そのくらいの覚悟でやらないと、これはできないと思うので、ぜひそういう観点で話をしていただきたい。

【田村委員】

直江津区独自の予算のなかにいろいろと入っているが、お金は無尽蔵というわけにはいかない。常識の範囲だと思うが、相当な額を要求しても、それは地域の独自の予算の提案になりうるのか。なぜそんなことを聞くかというと、例えば、安国寺のでこぼこの通路を直すとなると相当な金がかかると思う。それぞれの個人のうちに承諾を得ないといけない。そのような提案をしてもよいのか。

【磯田副会長】

基本、独自予算は、ハード事業には出ない。ソフト事業メインで提案できる予算というか、補助メニューなので、今おっしゃったような、動かしての補償や、整備しての補償等のレベルのことは、まず難しいと思う。雁木整備の補助金でも、そんなにたくさん出るわけではない。

【青山会長】

・５分間の休憩を宣言

―　休憩終了後　―

【青山会長】

５分ほど超過したが、再開する。増田委員の質問もあったが、令和６年度の事業予算として、これから優先度をつけて検討し、話を前に進めたいと思う。まず、増田委員に意見を求める。

【増田委員】

先ほど申し上げたように、住民の皆さんの意見交換を踏まえて、なおかつ私たちが前々から直江津をなんとかしたいと考えてきているなかで、今思いつくのは、やはり観光振興、それから歴史･文化の保存活用、自然環境の保全。これは五智公園だけではなく、当然、天王川も入る。それから、住みやすいまちにするための高齢者福祉、地域防災。今のところはその四つが考えられる。

【青山会長】

今、増田委員のほうから、４項目が提案された。これらを、優先度をつけて進めていくことに、意見はあるか。

【増田委員】

補足するが、令和６年度は、この項目を優先してやりましょうということで、時間がかかるものもある。なかには、ここで話をして、行政と話をすれば解決する問題もある。或いは、市民団体と話をすれば解決する問題もある。それも含めて、令和６年度はこの四つを中心的にやっていきましょうと。ここに載らない部分については、令和７年度、令和８年度に向けて、またしっかりと考えていきましょう、という趣旨なので、委員の意見をまとめたものは、今日もらったが、これを捨ててしまうわけではなく、皆さんからいただいた意見は全部生きている、というスタンスで進めていきたいと思う。

【磯田副会長】

増田委員の提案の４項目、住民福祉というなかでは、２項目に分かれるかと思うが、構成要素の話の部分での頭出ししか出ていないわけである。住民意見に寄り添った形での、事業提案というところまで持っていかなければいけないわけである。住民意見交換は、要するに，砂利もあれば玉もある意見なわけである。実現可能性もあれば、まるっきりとんちんかんな話をしている場面もある。それをきちんと精査した上での、事業提案を構築しなければいけない。或いは、単純に歴史・文化資産の保存や高齢者福祉といっても、事業の提案自体をどう作っていくのか。令和６年度予算に乗せるためには、どう提案書を書くのかというところまで、突き詰めなければいけない。それは８月末までである。北部まちづくりセンターが、その提案書を書くためにまず整理をつけて、何が事業として必要かということを、構築しなければいけないわけである。それを四つくらい出せというのは、いささか乱暴な話だと思う。今のお話のなかで、例えば観光振興といっても、今、市がいろいろな形で動いているなかで、何をどう提案するのかという糸口すらここで議論をしていない。それを北部まちづくりセンターが事業化提案を作るまでは、それこそ何十回もここで議論をしなければできない話だと思う。今のお話も含めて、本当に令和６年度の実現可能性として、ありうる事業は何かというのを、ここである程度方向性を議論して、導き出せれば一番よいのではないかと思う。その議論の深掘りは次回の会議に進めるとして、皆さんの思っている事業でもよいので、事業の候補としていくつかを提案いただければ、次回の会議に向けての方向も少し見えてくるのではないかと思う。

【田村委員】

つまり磯田副会長の話は、今増田委員が述べたような四つのなかから、さらに取組の整理をしてほしいということを言っているのか。項目を言ってほしいということを言っ

ているのか。これには構成要素、課題キーワード、取組の整理と書いてあるが、今増田委員が言ったのは、構成要素であった。

【磯田副会長】

増田委員の意見は、増田委員のご意見なので、他の方々も、このような事業をやりたいと、強い思いがあれば、ご発言いただければよいと思う。増田委員のおっしゃった、歴史・文化資産の保存活用は、どのような事業にするのかというのも、併せてご意見をいただければありがたい。観光振興でも、何をどうするかという具体のところは、やはり少し見えていないと議論の土台に乗ってこないと思う、という意味である。

【古澤委員】

増田委員の意見もそうだが、直江津地区美化運動事業も、即効性のなかで、できる施策かと私は思う。このやり方等は、また検討すればいいわけであって、これを入れたほうがよいのではないかと思う。

【青山会長】

増田委員の話がすべてではない。関係団体の人たちもいる。その人たちとも協議をしていかなければならない。だから、増田委員の意見がすべてでなくて、他にも出てくるのが一番よいわけである。

【古澤委員】

なので、私は今それを提案した。

【水島委員】

いろいろ意見が出るのは、非常にいいことだと思う。ただし、時間のほうもある。今、ここで何か結論を出せといっても、多分無理な話ではないかと思う。先ほど正副会長が協議されている間に、我々だけで話をしたが、あと２回でこれをきちんとして提出するのは、非常に難しい話ではないかと話していた。では、レインボーセンターをお借りして、お昼にできないかという提案もあった。忙しい人は、出られない人もいる。しかし、それくらいのことをやっていかないと、多分提出できないのではないか。あと２回で、今のような会議で、終わるような気は私はしない。だから、もう１回お考えになられて、お昼に声をかけるのであれば、声をかけていただければ、出られるときは出たいと思っている。

【青山会長】

なかなか難しい問題だが、水島委員から、お昼に会議を開催してはどうかという提案

があったが、いかがか。

【古澤委員】

今、時代が時代なので、あってしかるべきだと思う。時間帯についても、昼の３時からの３時間であれば、よい意見がたくさん出るのではないかという話も出た。基本的には全員参加だが、夜にやっても全員なかなか集まらない。そういうことも鑑みれば、昼集まれる方から集まっていただいて、ある程度の意見を出しておいて、落としどころで落とす、というようなやり方で持っていったほうがよいのではないかという話をさせていただいた。

【青山会長】

事務局は日程的にどうか。

【佐藤所長】

会場を押さえてないので、日中の開催については、答えを持ち合わせていない。

【青山会長】

次回の予定は８月８日である。その日までに、日程的なものを検討していただくわけにはいかないか。

【佐藤所長】

確認して、正副会長にご報告する。

【田中美佳副会長】

どのような方向で、どのようにやっていくか、誰かが仕切っていかないと、きっとこの状態のまま、毎回毎回集まるようになってしまう気がするので、そのへんはどうなのかと聞いていて思った。

【磯田副会長】

逆に、たくさん集まって議論していくのも一つの手ではあるが、一人一人が自分が事業主、或いは「やる」というつもりになって、何がやりたいか、自分が一番やりたいことは何か、そしてどうできるかという事業提案書を各自が書いて提出する。そうでないと、私も次の資料をまとめきれないので、それぞれが、自分だったらこの事業できる、というものを出してほしい。逆に、そうしないと間に合わない。そのくらいの、それぞれがやる気持ちで、提案していただければよいと思う。

【増田委員】

自分だったらどれがいいという考え方をすると、自分は何もできないとなってしまう

ので、そうではなく、これをやったら直江津のためになる、という発想で出してもらえば。例えば、歴史・文化のところで、磯田副会長が一部拾い出してあるが、全部拾い出すとそこそこのものは揃うわけである。歴史・文化と観光振興と非常に密接になっているので、一体として全部そこへ拾い出してもらう。グループごとにこういう意見が出た。そのほかに、何か追加するものがあれば、というように考えると先に進む。もう一つは、どのような内容でやったらいいか、そこのところの、ワーキンググループにして、たたき台の案として、みんなでわいわいがやがややりながら、項目を挙げてもらって、それを全体的でやるという方法もあると思う。８日の前に、ワーキンググループで１時間は観光と文化で密接だから一緒にやると。もう一つは、自然環境と生活環境、それから災害というふうにやるというようなことで。さっき古澤委員もおっしゃったが、全員が出られるのはなかなか難しいので、ワーキンググループでたたき台を作って、それで揉むというようにすると、比較的進むのではないかと思う。

【青山会長】

日程を決めたいと思う。もう祇園祭なので、８月に入ってからになる。８月１日午後３時頃はどうか。

【増田委員】

日程を決めて、出られない人は、このようなものを考えている、というものを出してもらえばよいのではないか。

【佐藤所長】

８月１日に、何をされるのか。ワーキングか。先ほど事務局から、会議室の予定があるので、またご報告させていただくと言ったが、そこからまた進まれて、１日に絞られたのか。

【青山会長】

令和６年度の事業提案を何にするかの話し合いである。それを、各自がピックアップして、できれば幾つかにまとめたい。ここで決められるものは決めたいので空き状況を確認してもらいたい。

―　事務局、会場の空き状況を確認　―

【佐藤所長】

１日の午後は空いているということである。１日に皆さんお集まりになると思うが、増田委員と古澤委員からいくつか視点をいただいた。また、磯田副会長からは、各委員

が企画書のようなものを作らないと間に合わないのではないか、というお話もいただいた。他の委員からは、どのような事業、視点等、まだいただいていない状況なので、そこを整理されてから、１日お集まりになったほうがよいのではないか。

【青山会長】

１日の午後３時に集まる。そこでこの話を出せばよい。

【佐藤所長】

承知した。

【小川係長】

では８月１日火曜日の午後３時からで、ご案内させていただく。また、次の会議については８月８日火曜日６時半からである。議題として、市民いこいの家の諮問が追加となる。

【青山会長】

他に意見を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

総合政策部　地域政策課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。